

第2章 展示リニューアルの基本方針

2-1. 基本的な考え方

1. 各展示室の展開について

- これまで述べてきたとおり、本館は開館以来、近江風土記の丘公園の中核施設として各史跡を紹介するとともに、地域の歴史・文化への理解を深めるためのテーマを設定した地域博物館として運営してきました。
- 展示リニューアルの基本方針を検討するにあたり、「現状の展示コンセプトを維持する展示」と、課題として挙げている利用者ニーズに合わせた安土城や信長などに特化する「安土城・信長・戦国をテーマとする展示」の2つの方向性について、本館の将来像を見据えたうえで、それぞれの期待効果や課題等を整理しました。

図表 18：展示内容の比較

	【A案】現状の展示コンセプトを維持する展示	【B案】安土城・信長・戦国をテーマとする展示
テーマ		
特徴・役割	<ul style="list-style-type: none"> ● 近江風土記の丘の史跡を巡るガイドランスとしての展示 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しいデジタル技術等を活用し、従来のイメージを払拭。ここにしかない、ここでしか見ることができない展示 ● 「幻の安土城復元プロジェクト」の中核施設・情報拠点施設
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ● 近江風土記の丘の史跡や県内の考古・歴史に広く興味がある人 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大人から次世代を担う子ども ● 戦国ファン

	【A案】現状の展示コンセプトを維持する展示	【B案】安土城・信長・戦国をテーマとする展示
リニューアル感	<ul style="list-style-type: none"> ● 展示造作や手法は新しくなるが、扱うテーマや内容に変化がないため、インパクトに欠ける 	<ul style="list-style-type: none"> ● 展示コンセプトやテーマが明確となり、分かりやすくなる ● テーマを絞り内容の充実やスペースの拡大を図ることにより、デジタル技術や大型映像等を使った展示など、リニューアル感を創出しやすい
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 25年ぶりに展示具や手法が刷新され、古代から中世までの地域の歴史を改めて学ぶことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「安土城・信長・戦国」のロマンを求めて訪れる利用者の期待と一致する ● 安土城跡と本館の一体性が生まれる ● 隣接する信長の館との集客数の差を埋めることができる
課題・方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 「安土城・信長・戦国」のロマンを求めて訪れる利用者の期待に応えられない ● ここにしかない独自性や安土城跡の立地特性を活かしきれず、現状以上の大きな集客が見込めない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 弥生時代や古墳時代の展示がなくなるため、近江風土記の丘としてのガイダンス色が薄れる <p>→ 現地案内のための情報発信機能を強化する他、特に企画展において近江風土記の丘関連のガイダンス部分の展示を強化する</p>

2. 展開の方向性および今後の検討課題

- 前章の課題等の解決へ向け、今回の展示リニューアルにおいては、安土城跡に近接する立地特性や「安土城・信長・戦国」の歴史ロマンを求めて訪れる利用者ニーズへの対応、集客性の向上、施設規模の制約などを総合的に検討し、テーマを絞り、ここ安土でしかできない、特徴ある展示とすることが適切であると判断し、本計画では「B案」を採用します。
- このことによって失われる、第1常設展示室の両史跡のガイダンス機能と、これまで館の活動としてあまり位置づけられていない近江風土記の全体のガイダンスおよび現地誘導については、新たな情報発信機能を検討する必要があります。
- 本県の埋蔵文化財部門の公開活用については、今後も発掘調査成果の蓄積が続くことから、開館当初からの近江風土記の丘のガイダンス機能を超えて、県全体の通史や考古展示を常設展示のみで担っていくことは、スペース的に困難であると判断されます。また、特別展・企画展等も含め、考古展示が肥大化することで、本来の展示コンセプトやテーマを薄れさせ、安土城跡を訪れる利用者ニーズとのかい離を生じさせている現状を考えると、将来的に、埋蔵文化財センターなど、考古遺物の公開展示を担うべき部門の位置づけや役割を見直す必要があります。

2-2. 基本方針

1. めざす姿

- 前節の基本的な考え方より、本館のめざす姿を以下のとおり設定します。
- 安土城および信長、戦国をメインテーマに本県の歴史文化に関する情報を発信し、来館者の興味・関心を高めます。

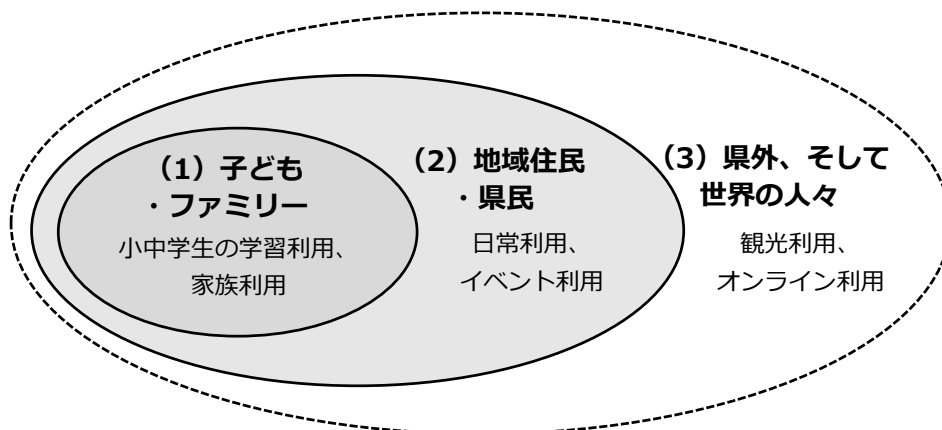
安土城と信長・戦国をテーマとする唯一無二の博物館として、
その情報・魅力を発信する

安土城・信長・戦国 魅力発信拠点

2. ターゲット

- 本館は社会教育施設であるため、オールターゲットの展示・活動を行います。新しい展示においては、特に「子ども・ファミリー」をコア・ターゲットとして位置づけ、集客力の向上を目指します。

図表 19 : 本館のターゲット



(1) 子ども・ファミリー（コア・ターゲット）

- 安土城・信長・戦国を中心とする滋賀県の歴史文化の理解促進へ向けて、本県の未来を担う子どもたちにとって効果的な展示を展開します。
- 本館は立地上、自家用車での家族利用がメインであるため、親子で楽しめる展示や体験プログラムの提供、親世代の満足できる展示内容の充実など、多世代で楽しめる展示・活動を行います。
- 本館を利用した子どもたちが将来保護者として再び訪れる、また地域文化へ興味を持ち生涯学習の場として利用するなど、次代につながる循環型の利用を目指します。

(2) 地域住民・県民

- 本県の歴史文化の価値や魅力を伝え、地域への誇りや愛着、また、安土城跡を郷土の宝として認識し将来にわたって守り継いでいく機運を醸成します。
- 地域文化の創造の拠点として、周辺施設や県内史跡、隣接する文芸の郷などとも連携した活動を行い、地域住民・県民が日常利用しやすい、身近で居心地のよい空間を創出します。

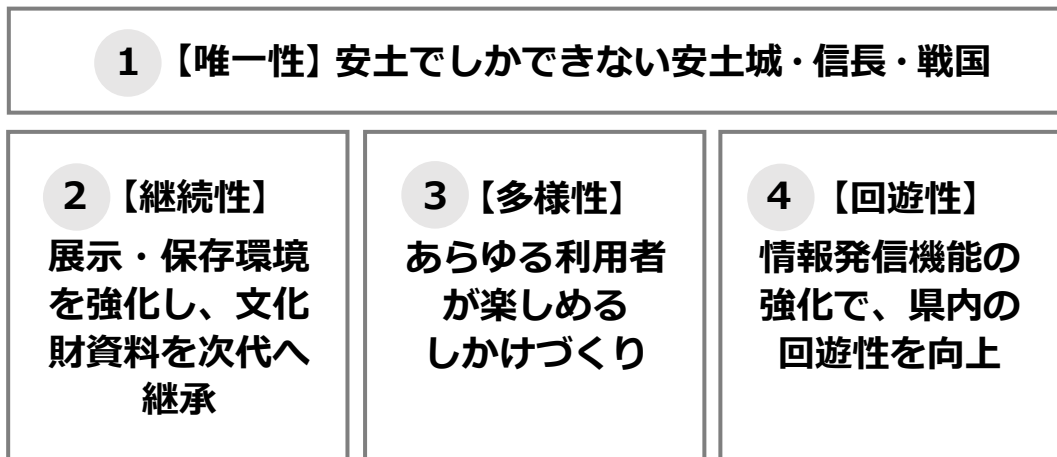
(3) 県外、そして世界の人々

- 本県の歴史文化の情報発信を通じ、さらなる認知度向上・ファンづくりを実現します。また、本館だけでなく公園全体をフィールドとし、様々な展示や活動を展開します。
- 館外からでも楽しめるオンラインコンテンツを提供するなど、With コロナ期における新たな展示・文化観光の在り方を検討します。

3. 展示リニューアル方針

- めざす姿の実現へ向けて、本リニューアルにおける基本方針を以下に示します。

図表 20：展示リニューアル方針



1 【唯一性】 安土でしかできない安土城・信長・戦国の展示

- 発掘・調査・研究に関する豊富な実績と成果をもつ本館の強みを活かし、ここにしかない唯一性のある展示リニューアルを行い、文化財の保護、公開活用に貢献します。
- 県民や国内外の方々へ、安土城や信長・戦国により親しみを持ってもらう展示とし、本館への集客力を高め地域振興・観光振興につなげます。

2

【継続性】展示・保存環境を強化し、文化財を次代へ継承

- 公開承認施設としての機能保持・改善を実現します。
- 空間環境や設備、展示ケースの調査・検証を行い、貴重な文化財資料の保存・公開機能をより強化する設備・環境を整えます。
- 費用対効果の高い機能・手法を検討し、必要最小限の改修での機能強化を目指します。

3

【多様性】あらゆる利用者が楽しめるしかけづくり

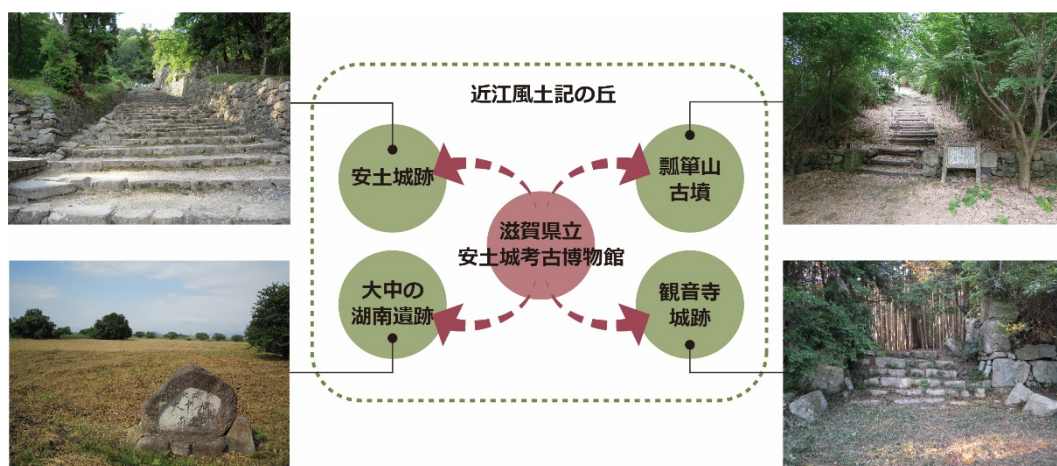
- 本県を代表する文化観光拠点として、近接エリアに来訪する観光客を引き込むと同時に、歴史ファンも満足する魅力ある情報を発信します。
- 障害の有無や年齢・国籍に関わらず、訪れる全ての人々が楽しみ、学べる展示とします。
- 展示内容の更新頻度を高め、訪れるたびに新しい発見を伴う展示を目指します。発掘調査成果や資料の入れ替えがしやすいケースやパネルなど、展示替えのしやすいシステムを検討します。

4

【回遊性】情報発信機能の強化で、県内の回遊性を向上

- 本館を基点に、安土城跡や観音寺城跡をはじめとする近江風土記の丘の回遊性を高めるとともに、近接する水郷や八幡地区、さらには本県の観光施設・スポットなどへの回遊につながるしかけやガイダンス機能の充実を図ります。
- 全国随一の城郭数を誇る本県の特徴を活かし、本館から各地の城跡や戦国関連スポットが巡れるよう、館内の情報発信機能や各史跡群との連携を強化します。

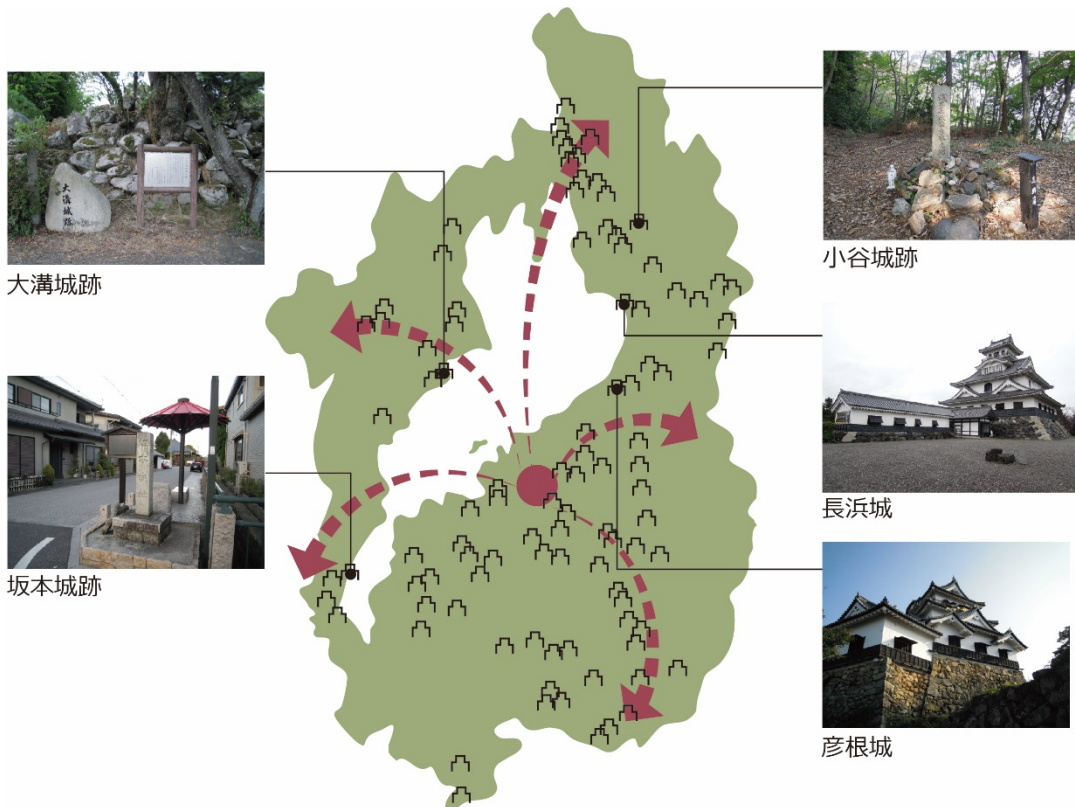
図表 21：本館を基点とする安土エリア回遊の図



図表 22 : 本館を基点とする県内観光スポット回遊の図



図表 23 : 本館を基点とする県内城跡回遊の図

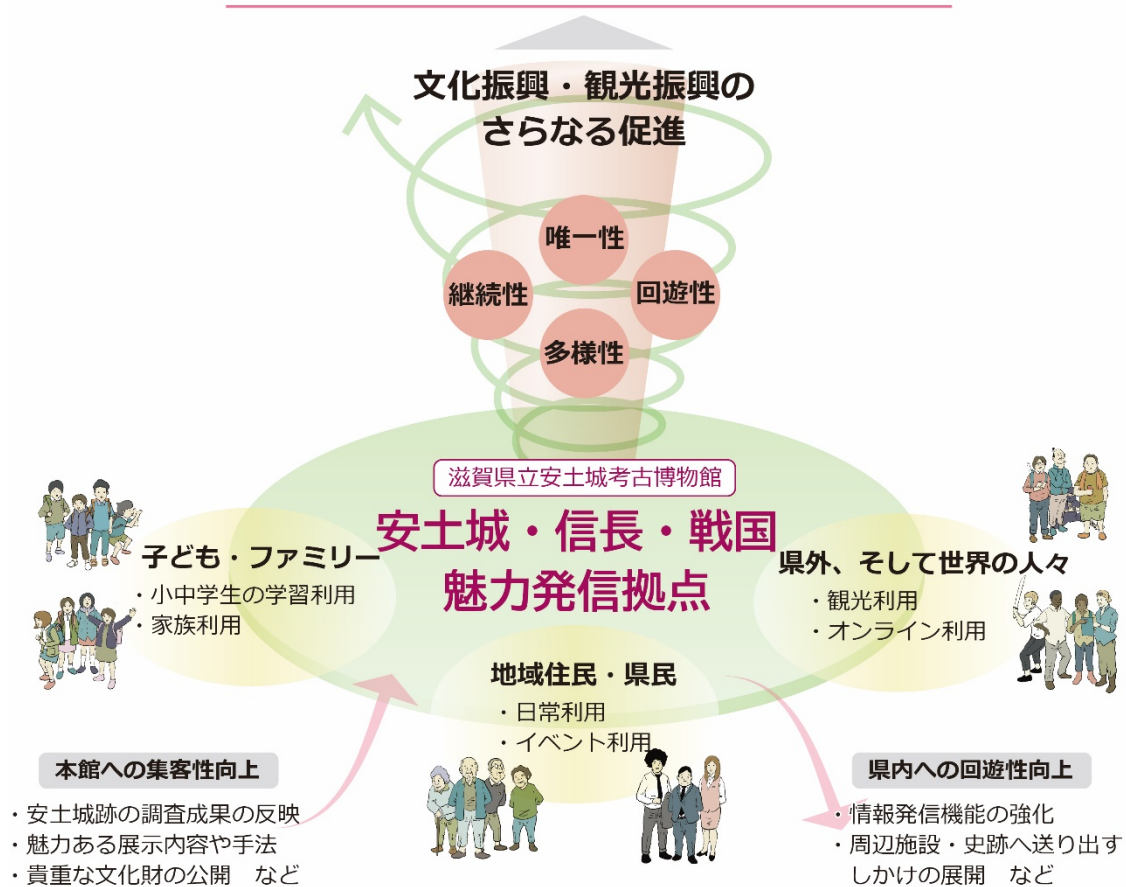


4. 期待される効果

- これらの方針を基に展示リニューアルを推進し、より多くの子どもたちや地域住民が安土城・信長・戦国をはじめとする本県の歴史文化に触れ、親しむ場や機会を創出します。そして、郷土に対する愛着や誇りの醸成、そして本県が有する文化財の保存・継承を図り、本県の文化振興の発展を目指します。
- また、歴史文化に関する多様な文化資源を観光資源として、これらの価値や魅力をさらに磨き上げ発信することで、本館を基点とする県内全体のにぎわいや経済波及につながり、本県の観光振興にも寄与します。
- 今回の展示リニューアルを一つの起爆剤として、滋賀県全体の文化振興および観光振興を図り、本県と安土エリアのさらなるブランド力向上を実現します。

図表 24：展示リニューアルにおける期待効果

滋賀県・安土エリアのブランド力向上

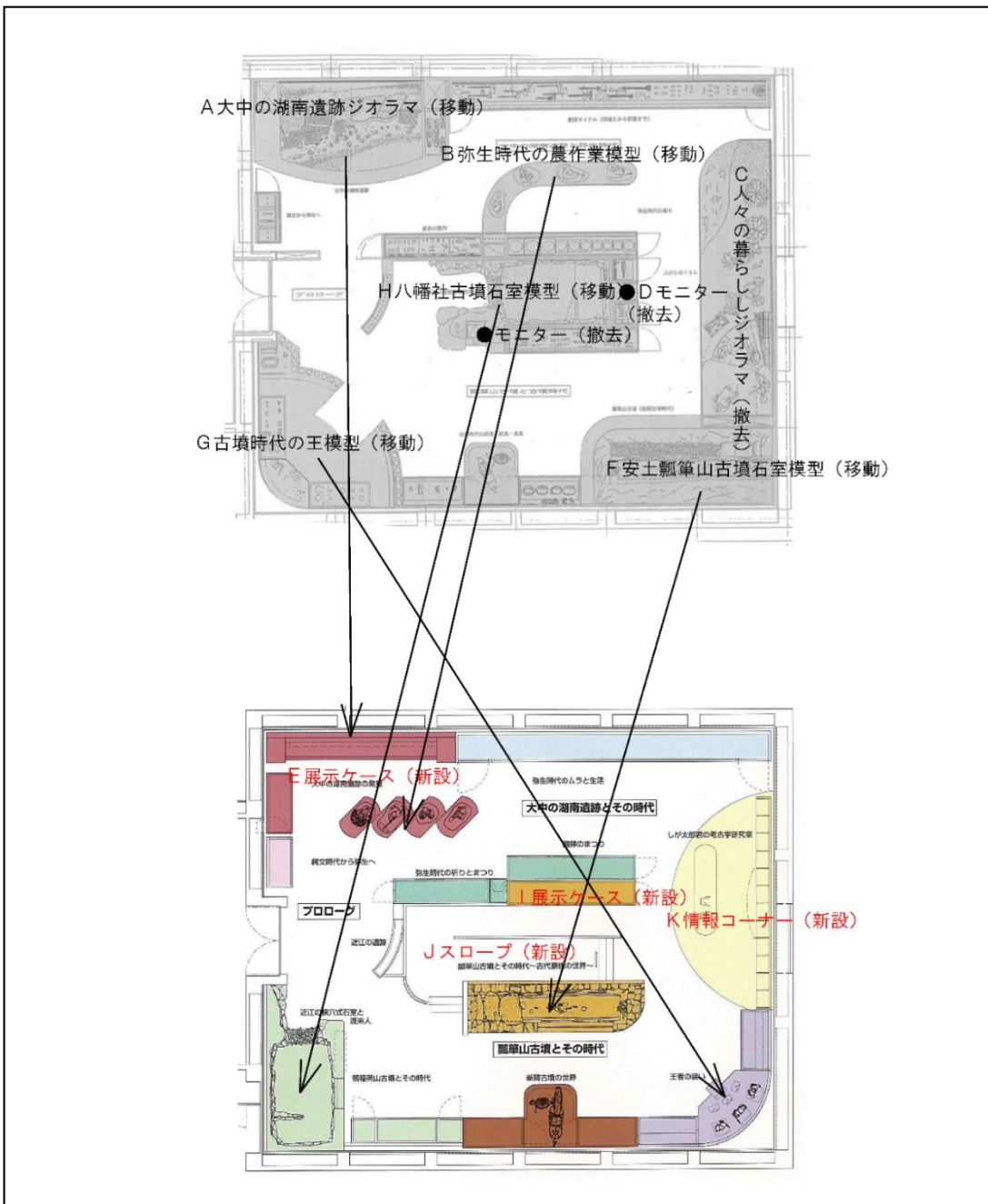


2-3. 展示リニューアル整備の概要

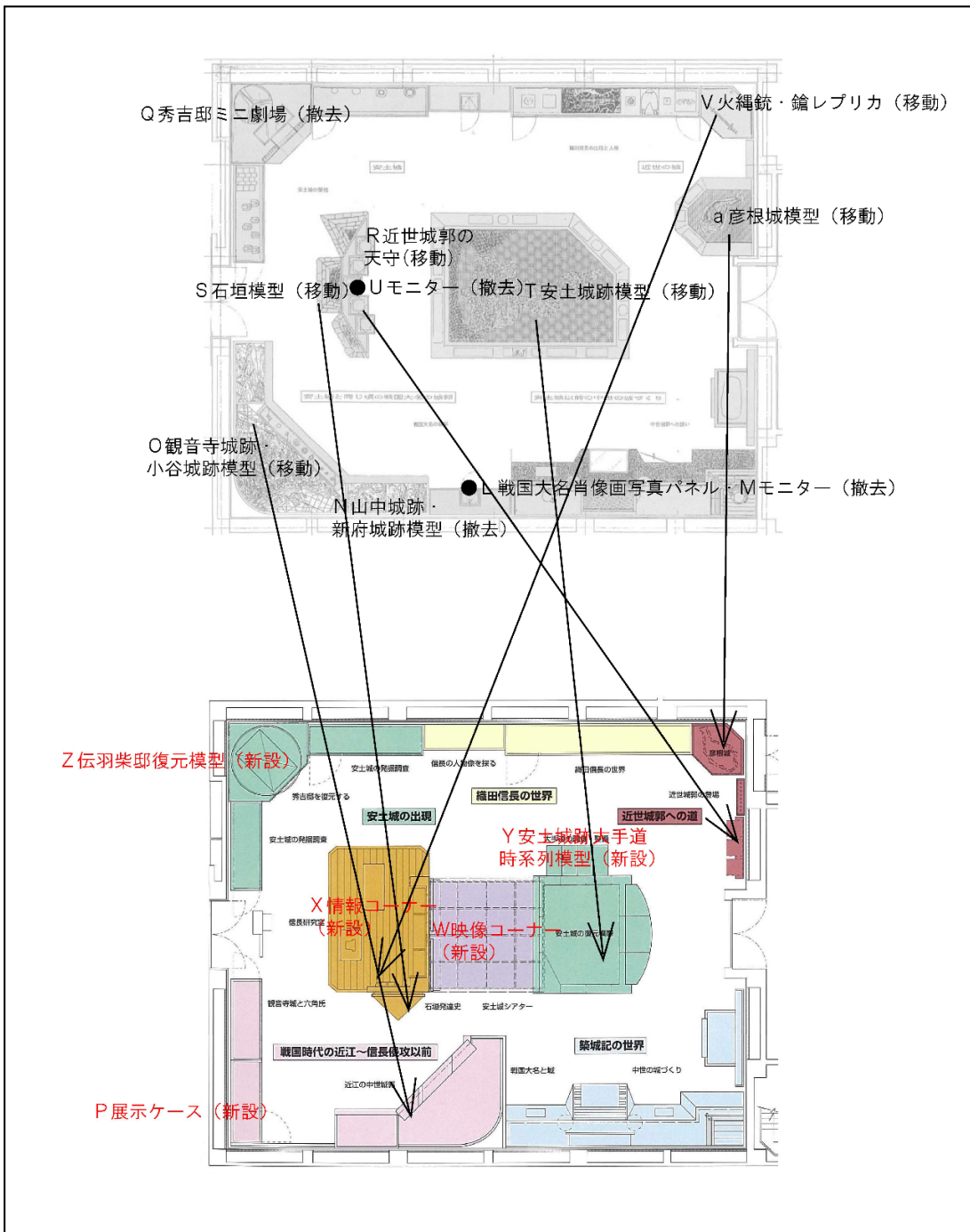
1. 前回（平成 13 年度）の改修内容

- 本館は平成 13 年度に常設展示室の部分改修を実施しています。展示コンセプトは変更せずに、主に展示ケースの増設や既存展示物の撤去・配置変更を行いました。
- しかし、本館が現在抱える課題は、前回のような部分的な改修では限界があり解消されません。課題解決と目標達成にむけて今回の展示リニューアルでは全面的な改修を基本とします。

図表 25：第 1 常設展示室改修内容



図表 26 : 第 2 常設展示室改修内容



2. 現状の諸室構成

- 本館における現状の諸室の概要は以下のとおりです。

図表 27：諸室構成

部門	諸室	概要	面積
展示	第1常設展示室	近江風土記の丘に存在する大中の湖南遺跡（弥生）、瓢箪山古墳（古墳）の遺跡を中心として、関連する時代の展示	383.1 m ²
	第2常設展示室	観音寺城跡（中世）や安土城跡（戦国）を中心に城郭を紹介する展示	383.1 m ²
	企画展示室	常設展示に関連するテーマを設定し、年4回程度開催する特別展・企画展	294.5 m ²
	望楼ホール	発掘調査や研究成果等の速報等情報展示	97 m ²
収蔵	企画展収蔵室、企画展収蔵庫、第一収蔵室、第二収蔵室、第三収蔵室、荷解室、特別収蔵庫、資料保管室、倉庫他		1,653 m ²
教育普及	情報コーナー、図書室、セミナールーム		275.9 m ²
研究	整理室、製図室、（保存処理室、分析室、X線写真室）写場、暗室、準備室、燻蒸室、その他		724.5 m ²
事務管理	館長室、応接室、事務室、学芸員室、会議室、管理室、休養室、その他		270.9 m ²
その他	エントランスホール	発掘調査や研究成果の速報等情報展示	152.1 m ²
	回廊展示	資料の調査・整理・復元作業の様子を回廊の窓越しより見学（財団法人滋賀県文化財保護協会に貸出）	—
	ラウンジ、風除室、通路・ポーチ、切符売場・売店、喫茶コーナー、厨房・厨房事務室、電気室、機械室、便所・給湯室等、倉庫他		1,611.9 m ²
全体計			5,846 m ²
屋外	付属棟（多目的施設）など		310 m ²

3. 整備範囲

- 今回の展示リニューアルでは、主に展示活動に係る部分「第1常設展示室」「第2常設展示室」を整備範囲として想定します。ただし、本館の展示部門には「企画展示室」「望楼ホール」が含まれ、電気・空調等、同一の設備・仕様であることを踏まえ、展示部門の一体感および施設改修の一体性から、連動・関連する部分については整備範囲として捉えることとします。

- また、常設展示室の改修に伴って、低下する機能を補完し、向上させるために「エントランスホール」の活用も検討します。
- これらと併せて、回廊展示や中庭等、館全体の活用の位置づけについても検討します。

図表 28 : 整備の考え方

